

会議録		令和7年10月31日作成	令和11年3月末日廃棄
会議名	京都府亀岡警察署協議会（令和7年度第2回）		
開催日	令和7年9月17日（水曜日）		
時間	午後2時から午後4時までの間（120分）		
場所	京都府警察本部本館及び110番指令センター		
出席者	湯浅会長、木曾副会長、栗山委員、櫻間委員、サミュエル委員、中澤委員、 藤本（妙）委員、前田委員 （欠席 内藤委員、飛田委員、藤本（祥）委員）		
	署長、警務課長、広聴相談係長		
諮詢事項	1 京都府警察本部本館見学 2 京都府警察本部110番指令センター見学 3 前回に受けた要望等への取組状況説明		
会議内容	1 協議（見学） 諒問事項説明 (1) 京都府警察本部本館見学 (2) 京都府警察本部110番指令センター見学 ア 映像～組織力・機動力による逃走被疑者の逮捕 イ 交通管制センターの役割と仕事 ウ 通信指令課の役割と仕事（通信指令課長による説明） エ 広報センターの見学 (3) 前回に受けた要望等への取組状況説明～署長 <b>【委員】</b> 110番通報の電話は通信指令センターにつながり、受信した指令センタ ーでは通報内容から事件・事故の概要を知り、地図上で発生場所を瞬時に把握し、現場に一番近いパトカーや警察署に無線で指令し、パトカーやヘリコプターなどを活用して警察官を急行させ、迅速な初動対応を行っている。110番指令センターの職員の方は、通報者から正確に情報を聞き出し、適格に判断して、瞬時に現場へ伝えるための高い技術が必要だと感じた。 110番通報をする事象が起こった時、いかに的確に内容を通報できるか、 広報センターで体験して思うことは、事件、事故の状況、人物の特徴などを的確に認識・把握し、短時間に伝えることの難しさを感じる。シミュレーション機器では3つの回答から正解を選ぶようになっていたが、そもそも記憶		

## 会議 内 容

が曖昧であるのに瞬時に思い出し、自分の言葉で正しく伝えることは本当に難しい。そして、慌てて混乱している通報者から状況を聞き出し、短時間に指示を出して対応するには、高度な能力が必要不可欠だと感じた。今はスマートなどの録画機能による通報が役立っているため、事件に遭遇した時には対応できるよう心掛けたい。

見学からの帰り、パトカーが国道9号線上を出動する場面を見た時、交通管制センターの大きな地図と通報の様子が頭に浮かび、パトカーが通報現場へ到着するまでにはどのくらいの時間を要するのか、ふと気になった。また、交通渋滞解消のために信号機の時間調整が行われていることについて、今回、初めて知った。

【委員】 テレビドラマなどでしか見たことのない通信指令センターや交通管制センターを見学させていただき、改めてシステムの凄さを感じてワクワクした。

通信指令センターでは、110番通報を受けると同時進行でパトカー等への指令を出し、現場急行させる素早い流れ、初動の大切さ・凄さを実感した。見学日の前日には府下で約270件の事件、事故発生があったとのことであり、京都府だけでこれだけの件数が発生していることに驚くとともに、警察がその一つ一つに対し確実に対応していることの大変さを痛感した。

交通管制センターでは、渋滞の際に信号機の調整をすると聞き、なるほどと思った。また、システムの機能にも驚いた。

広報センターでは様々な模擬体験をして勉強になった。中でも110番通報体験では犯人の服装や現場をしっかりと見ていなかったり、自転車シミュレータでは実際に街中を走るのは無理だと自覚をしたりで、楽しみながら学ぶことができた。

今回、個人ではまず来ることがないと思っていた警察本部見学の機会をいただき、本当に良かったと感じている。

【委員】 今回は京都府警察本部の見学をさせてもらい、普段は意識していない警察の業務を知ることで、市民として、警察への理解と信頼がより深まった。

交通管制センターでは交通量や信号機制御がリアルタイムで管理されており、交通をより安全にスムーズに行うための仕組みを知ることができた。こうした裏方の人の努力によって、日々の生活の安全が支えられているのだと実感した。また、実際の信号機や標識を直接触ることができたのも良い経験であった。

通信指令センターでは、110番通報が入ってから数秒で状況を判断し、迅速・的確な対応ができるようシステム化されていることが分かり、市民として安心した。

広報センターには110番通報体験のコーナーがあったが、体験してみると、人間の記憶は本当に曖昧であることを実感した。また、画像で通報できるシステムはとても有効な方法だと思った。今後は外国人への対応が更に増加すると思うので、翻訳AIなど、最新システムを活用した対策が更に進むことを期待する。

## 会議 内 容

来年から自転車運転者への青切符適用が始まると聞いたが、スピードや車格の違う自動車と自転車が混在する危険性を踏まえた、より良いルール作りを模索していただけたとありがたい。

今回の見学を通じ、警察が日々多くの情報を迅速、正確に処理し、市民の安全を守っている姿に深く敬意を抱いた。私自身も今以上に防犯意識を高めるとともに、地域社会の一員として協力していくことの大切さを再認識する1日であった。

【委員】今回の警察本部見学では、普段は一般来訪者が入ることのできない施設内を案内してもらい、非常に貴重な体験ができた。通信指令センターでは、事件・事故が発生した際に大型画面の地図を使って現場を確認し、いかに早く警察官を現場急行させ、場合によっては緊急配備を行う等の仕組みを説明していただいた。まさに最先端の施設、地域犯罪や交通事故防止の中核頭脳の拠点、全ての情報が集約されて指令が行われる安全安心なまちづくりの要であり、素晴らしい見学体験に関心、感激した。約7000名の職員で構成される警察本部と各警察署との連携によって、我々京都府民の生命、財産が守られ、日々枕を高くして寝られるのだと実感した1日であった。

【委員】今回の見学では、本館から見渡す京都市内北部の景色も素晴らしいが、交通管制センターの大型スクリーンには圧倒された。京都府内の幹線道路から近畿の高速道路まで、リアルタイムで瞬時に道路交通状況が把握できる優れモノである。単に情報だけであれば、昨今はパソコンやスマートで誰でも得ることができるが、それらを効率よく的確に把握し、迅速な判断と指令によって、適切な対応が行われているのだと感じた。また、通信指令課で驚いたのは、パトカーからの現場映像が手に取るように見られるということである。現代では特に珍しい技術ではないのかもしれないが、想像以上の進化と実用性に驚いた。そして、これらの映像は現場情報を収集し、現場の鎮静化や事件解決に役立つものだと感じた。ただ、治安維持のため、いくら街中に多くの防犯カメラが設置されたとしても、治安対策における最後の砦は「バレるから（犯罪行為を）やめる」ではなく、一人一人が倫理観を高め、府民全体で善良な気持ちを養い育てていくことだと、改めて思った。

【委員】今回は、本当に貴重な体験をさせていただいた。いつもラジオで流れている道路交通情報が台本なしのぶつけ本番だと聞き、プロの技量の凄さに驚いた。また、限りなく入ってくる110番通報を正確に聞き取りながら瞬時に緊急性や現場の状況を判断し、的確に振り分けて必要な対応を行うという一連の流れがシステム化されており、もし私自身が通報を行うこととなった時にも安心して任せられると感じた。1階の体験コーナーでは、記憶の曖昧さや通報の難しさなど、気付かされる点が多く、多くの人が体験した方が良いと感じた。開庁日であれば誰でも体験できるとのことだったので、是非とも職場の同僚に紹介しようと思う。

また、見学の最後には署長から第1回協議会以降の取組状況について報告を受け、亀岡警察署が市民のために一生懸命取り組んでおられることを実感

会議  
内 容

した。

【委員】 今回は京都府警察本部の見学という、日頃はなかなか目にする機会がない本部建物の内部と、日々事件、事故への対応が行われている業務を見せていただいた。完成からさほど経っていない新庁舎の美しさにも目を引かれたが、そこに勤務されている大勢の方々が、地域の安全・安心のため、日夜、こんな風に職務に励んでおられるのかと感心した。「交通管制センター」と「通信指令センター」では道路状況や事件、事故の発生がリアルタイムに分かり、システム化された即時の対応には、驚きと共に大きな安心感を覚えた。大変貴重な機会をいただき、とても良い経験になった。

【委員】 今回は、いつもの協議会とは異なるテーマを企画していただいた。中でも交通管制センターで受けた、交通状況の制御に関する説明が大変印象的であった。また、通信指令センターでは通報→受理→指令という「110番通報を受けた際の流れ」についての流れが大変興味深く、とても勉強になった。少し残念だったのは、新たに建てられた本館がごく一部しか見学できなかつたことである。各部署を見せていただくのは無理かもしれないが、差し支えない場所等をもう少し見せていただきたかった。毎年は無理かもしれないが、今後も継続して企画してほしい内容であった。

2 事務連絡

令和7年度第3回京都府亀岡警察署協議会は、令和7年12月中に実施予定である。

以上

## 第2回京都府亀岡警察署協議会の開催状況

